



筑後川花火大会の篠山会場
次々と色鮮やかな花火が打ち上がりました

第363回 筑後川花火大会

「水の祭典久留米まつり」が、8月3日の前夜祭を皮切りに、3年ぶりに開催されました。4日の本祭は、熱気あふれる中、巨大なカッパ山車や幼稚園・小学生のマーチングバンド、高校の吹奏楽部など27の団体がパレードに参加。暑さを吹き飛ばすパフォーマンスで観客を沸かせました。19時からスタートしたそろばん総踊りは、25の踊り連が参加。明治通りを汗が滴りながら、懸命に約2時間踊り続けました。グランプリに輝いたのは「たんぼ連」の皆さん。振り付け

などの踊りの技量、活気とチームの統一性など踊り連としての総合力が評価されました。
5日に開かれた筑後川花火大会は、約8000発の打ち上げ花火に約40万人が訪れ、次々と打ち上がる花火に歓声をあげていました。今年も、新型コロナ感染拡大防止のため、家からでも花火大会を楽しめるように、初めてYouTubeで生配信しました。
◎久留米観光コンベンション国際交流協会（☎0942・31・17
17、FAX0942・31・3210）



各交差点で太鼓を響かせる
太鼓響演会



市消防団による伝統の
有馬火消しはしご隊の
演技



六ツ門本舞台から踊り連に声援を送る原口新五市長



明治通りが踊り連で埋め尽くされた「一万人のそろばん総踊り」



口上を述べる久留米青年会議所



自衛隊による「高牟禮祝山車」

3年ぶりに集う 熱気と活気



第51回 水の祭典 久留米まつり



荘島小学校のマーチングバンド
息の合った演奏を披露



久留米青年会議所による「久留米九千坊」
巨大なカッパ山車で会場を沸かせます



祭り三役によるテープカット



そろばんを鳴らしながら
ひたすら踊り続けます



スタジオMJのみんなと一緒にくるっぴもダンスを披露



華やかな旗さばきで
観客を魅了しました



冷たい霧で涼む
子どもたち



総踊りグランプリを
獲得したたんぼ連



六ツ門本舞台でステージ特別演技を
披露したフジタバレエ研究所